

2. 調査対象遺構の考え方

(1) 調査対象

神奈川県内に所在する関東大震災に関する①遺構、②被害の様子を撮影した写真を対象としました。

(2) 遺構の定義

神奈川県内に所在する関東大震災に関する自然物(地震による隆起・沈降、地表地震断層、山崩れや崖崩れの痕跡など)、人工の有形物(被災建造物・構造物、災害復興建造物・構造物、災害に関する記念碑、記念館・資料館、公園など)を遺構と定義し、調査を行いました。

(3) 選定の考え方

① 関東大震災遺構(30箇所)

地震を乗り越えた人々が残した遺構の選定にあたっては、以下の点を考慮し、選定を行いました。

- 1) 関東大震災による被害やその後の復興事業の様子が読み取れ、現代においても教訓となるものを重視
- 2) 外国人被害や、工場地域の大勢の被害など、自然現象以外の事柄に関するものを選定
- 3) 県内のできる限り広範な地点から選定

② 関東大震災被災写真(70箇所)

関東大震災被災写真の選定にあたっては、以下の点を考慮し、選定を行いました。

- 1) 関東大震災の被害により、(一般的に多く報道される火災以外にも)多様な自然現象が引き起こされた被害
- 2) 現在の神奈川県で次に大規模な地震が生じた場合、再び起こりうる事象
- 3) 地域の象徴的な施設や場所が撮影されている写真
- 4) 県内のできる限り広範な地点から選定

なお、今回は30遺構、70写真の選定を行いました。県内の震災遺構、震災に関連した写真はこれだけではなく、地域で大事に取り扱われている遺構は数多く残されている(「5. 県内震災遺構リスト」を参照)ことから、30遺構、70写真以外について今後も継続して調査を行う予定です。

(4) 専門家による監修

本資料の取りまとめにあたっては、名古屋大学減災連携研究センターの武村雅之特任教授(以下、武村教授)の監修を受けています。

武村教授は、関東大震災の本震・余震のメカニズムの解明、被害データの整理分析による詳細震度分布の評価^{5,6,7}、関東大震災を構成する個々の大惨事の実態解明による教訓の整理⁸、関東大震災当時の日記の分析^{9,10}に加え、東京都 23 区内¹¹や神奈川県内^{12,13,14}の震災遺構の調査など、長年にわたり関東大震災に関連する調査研究に携わってこられた当分野の第一人者です。本資料の取りまとめにあたっても神奈川県内の震災遺構の調査報告書^{12,13,14}を参考としています。

⁵ 武村雅之, 「1923 年関東地震の本震・余震の強震動に関する最近の研究: 強震記録・住家被害・体験談の解析」東大地震研究所彙報 第 73 号, 1998 年

⁶ 武村雅之, 「1923 年関東地震の強震動と被害」1995 年兵庫県南部地震 5 周年特別企画, 日本、地震、あれから、これから (土木学会), 2000 年

⁷ 武村雅之, 「関東大震災-大東京圏の揺れを知る」鹿島出版会, 2003 年

⁸ 武村雅之, 「未曾有の大災害と地震学-関東大震災 (シリーズ繰り返す自然災害を知る・防ぐ)」, 2009 年

⁹ 武村雅之, 「手記で読む関東大震災 (シリーズ日本の歴史災害)」古今書院, 2005 年

¹⁰ 武村雅之, 「天災日記-鹿島龍蔵と関東大震災」鹿島出版会, 2008 年

¹¹ 武村雅之, 「関東大震災を歩く-現代に生きる災害の記憶」吉川弘文館, 2012 年

¹² 武村雅之・都築充雄・虎谷健司, 「神奈川県における関東大震災の慰霊碑・記念碑・遺構 (その 1 (県中部編))」, 2014 年

¹³ 武村雅之・都築充雄・虎谷健司, 「神奈川県における関東大震災の慰霊碑・記念碑・遺構 (その 2 県西部編 (熱海・伊東も含む))」, 2015 年

¹⁴ 武村雅之・都築充雄・虎谷健司, 「神奈川県における関東大震災の慰霊碑・記念碑・遺構 (その 3 県東部編)」, 2016 年